

平成 21 年 10 月 26 日

株式会社大智

軽油とガソリンに燃焼促進剤を混合した場合の分析結果

【測定条件】

測定装置：島津製作所製 GC-14B

カラム：DB-1 (60m×0.23mm)

カラム温度：70℃-10℃/min-320℃ (15min)

注入口温度：300℃

検出器(FID)温度：330℃

キャリアガス：He

スプリット比：1：100

注入量：0.2μl (33.3%ジエチルエーテル溶液)

【測定結果(それぞれ 3 回測定)】

1. 軽油 単体
2. 軽油+K-S1 (1：1000, 3 時間放置した後測定)
3. K-S1
4. ガソリン 単体
5. ガソリン+TK-M1 (1：1000, 3 時間放置した後測定)
6. TK-M1

【考察】

GC チャートを比較しますと、

軽油単体と軽油+K-S1 とでは、

それぞれのピークにほとんど変化がないことがわかります。

同様にガソリン単体とガソリン+TK-M1 とのピークの形状に

ほとんど変化がありません。

従って、K-S1 および TK-M1 添加による

軽油、ガソリンの変質はないと見なせます。

【分析者名】

金沢大学 理工研究域 物質化学系 准教授

本田 光典